

夏の暑さに逆戻りしたかと思えば雨が続き、初冬の寒さに震え、さらに台風。気候の急激な変化には驚くばかりです。体調維持にご留意ください。現在会員登録数 2,501 人さま。次号は 11 月 21 日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》読書活動ボランティアのためのワンポイント 86

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

●「第 34 回 日産 童話と絵本のグランプリ」締切迫る！

アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募集しています。締め切りは 10 月 31 日（火）です。詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html

● 研究紀要の原稿募集

当財団では論文集「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第31号の原稿を募集しています。お申し込み、詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/04_journal/boshu.html

● Twitter はじめました

当財団公式 Twitter をはじめました。いろんな情報を発信していきます。

フォローしてください。 → https://twitter.com/IICLO_News

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Jun's Talk

『空で出会ったふしぎな人たち』 齊藤洋/著 高島純/絵 借成社 2017年8月
対象年齢：小学校中学年以上

あらすじ：「わたし」は空飛ぶ玄関マットに乗って空を飛び、特殊なゴーグルで空の裂け目である「カオス」を管理する仕事をしている。「カオス」にほころびがあると、修繕すると同時に、そこから出てきたものは、管理人の物になる。「わたし」はカオスを探すが、カオスを見つける代わりに不思議な人たちに出会う。『ギュレギュレ』の続編。

J：空で出会った不思議な人たちと「わたし」のリズミカルな掛け合いの展開がユニークでおもしろかったです。

Y：あり得ないことが次々と起こることと、「わたし」の常識で不思議な出来事に対して理屈をこねるところをニヤニヤしながら読みました。

J：奇想天外でありながら、物語の深部にはシリアスなものがあるように思います。「カオス」は何を隠し、その探索と補修が何を意味しているのか考えさせられました。また、ギリシャ人や広目天王やリヒトホーフェン男爵や竜宮の亀の人物造型の理由は？と考えると、同じ著者の「白狐魔記」との関連性を思わずにはられません。

Y：「カオス」はこの本では「混沌」であり、「宇宙が生まれる前の状態」であり、「ぐちゃぐちゃになっていて、なんだかわからないもの」と説明されています。時間や空間、次元を超えるほころびのようなもので、ブラックホールをイメージしました。そして、この社会は、歴史的な事実とつながっているだけでなく、異次元とのつながりを意識することで、現代社会における常識がいかに見方によっては非常識なものかを示しているように思いました。

J：第一次世界大戦のパイロットであるリヒトホーフェン男爵が出てきたり、「エピローグ」で「どこかの卑怯な軍隊のように、無人の偵察機を使う」という表現があったり、戦争を意識させる表現が見られた点も今の社会のきな臭さと共鳴しているように感じられました。が、踏み込んで書かないところが本作の特色なのでしょう。「西遊記」や「浦島太郎」、ドラゴンや空飛ぶ絨毯など、古典作品や昔話との関連も楽しいです。

Y：著者には『西遊記』『西遊後記』という作品もあります。過去の物語の自由な解釈には共通するものを感じます。

「わたし」は、『ギュレギュレ』で出会ったカオス管理のアルカン氏にカオスを見つける紙飛行機（偵察機）をもらいますが、一度しか使わず、毎日曜日に空を飛んで不思議な人たちと出会うことに楽しみを見出します。使命や目的を持って生きることだけが人生じゃないというメッセージを読み取り、ここにも独特のユーモアを感じました。

* 今回のゲストは当財団の遠藤純理事・特別専門員（J）です。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第26回「月夜のでんしんばしら」

シグナルが下がるとき

日本の子どもの文学は、1960年前後に、詩的、象徴的なことばで心象風景を描く「童話」から、もっと散文的なことばで子どもをめぐる状況(社会)を描く「現代児童文学」に転換します。長い戦争のあとには、子どもにむかって、「戦争」も「社会」も語らないわけにいかなくなったのです。

「現代児童文学」を出発させたのは、佐藤さとの『だれも知らない小さな国』(1959年)でした。小人の登場する長編ファンタジーです。戦争体験が作品の下敷きにもなっています。

ことしの2月に亡くなった佐藤さとは、ファンタジーという物語の形式について、突きつめて考えた作家です。佐藤は、「宮沢賢治をファンタジー作家と呼ぶのはあやまりだろう」と述べています(『ファンタジーの世界』1978年)。佐藤の考えるファンタジーとは、現実と非現実が区別された二次元的な世界を散文によって確かに描いていくものだからです。賢治は、「童話」の時代の作者で、詩的なことばでつづった人でした。

その佐藤さとが「しかし、(賢治の一筆者注)数多い短編の中には、ファンタジーとしてよい作がいくつもあり、この作品は特に見事である。」と解説に記して、みずから編んだ『ファンタジー童話傑作選I』(1979年)におさめたのが「月夜のでんしんばしら」でした。

「ある晩、恭一はぞうりをはいて、すたすた鉄道線路の横の平らなところをあるいておりました。」——これが書き出しです。すると……

くつつぜん、右手のシグナルばしらが、がたんとからだをゆすぶって、上の白い横木を斜めに下の方へぶらさげました。(中略)
つまりシグナルがさがったというだけのことです。)

語り手は、「ところがそのつぎが大へんです。」と切り出します。線路の左側のでんしんばしらの列がいつぱいに北のほうへ歩きはじめるのです。「ドッテドッテテ、ドッテテド、／でんしんばしらのぐんたいは／はやさせかいにたぐいなし……」と立派な軍歌まで歌って。

佐藤さとが、どうして、この作品を「特に見事」としたのかは書かれていないのですが、シグナルが下がった、そのときに、現実が非現実になる物語は、まさに見事です。やがて、また「シグナルはがたりとあがって」、物語は、幕を閉じます。(馬車別当)
(本文の引用は、角川文庫版『注文の多い料理店』によりました。)

《3》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 86

その11 さまざまなご質問にお答えします(4) おはなし会について

質問：絵本を読むとき、指さしをしてはいけないのですか。

集団で絵本を楽しむ時、子どもたちは絵を見ながら、読み手の声を聞いて絵本の世界を楽しみます。そこで、一番大事なことは、絵本の絵を子どもたち

が集中して見るができるということです。指さしをすると、画面にその人の指が入って画面の絵が邪魔されるという意味では、指さしはできるだけ控える方がいいと思われます。

そういう意味では、指をささないで、絵と言葉が一致しない、絵が見えないという絵本は選ばない方がいいとも考えられるかもしれません。

絵本を読むというのは、読み手と聞き手のコミュニケーションですので、読んでいる時に、子どもたちがどうしても理解していないことがあったり、赤ちゃん向けのおはなし会など、指をさした方が、子どもたちがよりこの絵本を楽しめると感じた時は、指をさすこともあると思います。

加えて家族や数人の子どもたちと読むときは、大人も子どもも自由に読めばいいのであって、指をさしたらそこで立ち止まるのは自然なことです。

* 次号は「その 11 さまざまなご質問にお答えします (5)」の予定です。
ぜひ、ご質問やご意見をお待ちしております。(Y)

《4》 行って来ました！

大阪市立美術館で、来年1月21日まで開催される「ディズニー・アート展のちを吹き込む魔法」に行ってきました。ミッキーマウスの誕生から最新作『モアナと伝説の海』までの原画やスケッチ、コンセプト・アートなど約500点に、一部映像も加え、5つの時代に分けて作品ごとに展示されています。

その中で、1937年から1942年の作品を展示した「魔法のはじまり～あくなき研究と開発の日々～」コーナーが、アニメーション技術がどんどん開発されていく過程がわかって特におもしろかったです。

「ピノキオ」は、「視覚の魔法」というタイトルで、奥行きや立体感を表現するために発明されたマルチプレーンカメラのことが模型や実際の映像などで解説されています。「ファンタジア」は「音の魔法」。ステレオの音響にこだわり、音に合わせて映像がつくられていることが説明されていました。そして、「ダンボ」は「心の魔法」として子象の喜怒哀楽の表現が、「パンビ」は「自然の魔法」と題して子鹿のリアルな動きや背景の森の美しさが工夫されたことが紹介されていました。

作品ごとに、手描きのイラストがあり、あたたかみのある鉛筆画が表情豊かで楽しかったです。また、映画全体のスタイルやキャラクターのルックスや性格などを決めるために何人もの人が描いた画風や色調が異なるイメージ画も展示されており、それぞれに芸術家たちのディズニー映画に対する思いを感じることができました。(K)

【3】全国のイベント紹介

- 資料展示「ドイツの子どもの本の魅力ー翻訳者上田真而子の仕事ー」
上田真而子さんは、『はてしない物語』（ミヒヤエル・エンデ）、『あのころはフリードリヒがいた』（ハンス・ペーター・リヒター）などのドイツの子どもの本を翻訳し、日本の子どもの本にも影響を与えてきました。上田さんが大阪府立中央図書館に寄贈された貴重な本を紹介します。入館無料
会 期：11月10日（金）～12月28日（木）休館日あり
会 場：大阪府立中央図書館 1階展示コーナー（東大阪市荒本）
主 催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館
協 力：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ 【4】プレゼント ■

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『空で出会ったふしぎな人たち』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガNO.86 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。
締切は11月10日(金)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

「一人酒」に「はしご酒」、といっても演歌の題名ではない、アルコール依存症の要注意サインとのこと。几帳面で真面目、不器用な定年退職後の高齢男性は、特に要注意とあった。カッコよく健さんや寅さんの孤独で寂しい男の背中を思い浮かべて、今宵また…。

明けて、毎度のつぶやき稿、前夜のお酒が残る頭で格闘すれど、軽妙“洒脱”に書けるわけもなく…自壊、自戒。(A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

- このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。
- 配信の登録・解除・変更は、
http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ
- このメールの送信アドレスは配信専用です。
- 記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
